

# 富士山登山にチャレンジ

2006年9月2日(土)~3日(日)

野田道隆

自分にもわかりませんが、ここ2,3年前から夏が近づくと、「今年は、富士山に登ろう。」という漠然とした願望が湧いてきて、廻りの人に「富士山登らない？」と誘ってきました。しかし、自分が言い出しっぺになると、突発的な仕事が入るとどうにもならなくなるので、具体的には、行動を起こしませんでした。

しかし、今年も8月の終わりが近づいてきて、「ああ、今年も登れなかった。」と思うと同時に（一人で登ってみようかな）という気になっていました。

8合目の山小屋に電話して、「いつまで営業していますか？」と聞いたところ、「9月18日で終わりです。」と返事が返ってきました。

（まだ、間に合う。9月2週目は、仕事が入っているけど、最初の土日であれば行けるかも。）

小学生時代依頼、山登りしたことなかったのになんで富士山に登りたいと思うようになったのでしょうか。

理由はおそらく、年齢的なものだと思います。バイクの大型免許を取ったのもそうだったかもしれません。

（今しかできない。）という気持ちを常に持つようになってきました。ただ、ひとつ言えるのは、壮大な目標を設定するのではなく、少し努力すれば手の届く、身近な目標を目指すようになったのかもしれない。そのひとつが富士登山だったのかもしれない。

しかし、その富士登山が自分にとってそんなに簡単なチャレンジではなかったことに後で思い知らされることになりました。

夏休みクルージング中ヨットの上で、山本さんに「富士山に登ってみたい」と話をしたのを山本さんも覚えておられ、今井宏宗君に会った際、私が富士山に登りたいと話をされたそうです。その場で宏宗君から電話をもらい、「行くのなら付き合いますよ。」と伝えてくれました。その時初めて知ったのですが、宏宗君が富士山に何回も登っているベテランで、世界の様々な山に昇っているそうです。勢いにまかせて「行きましょう。よろしくお願いします。」と二つ返事で返事してしまいました。それが、富士山に行く4日前のことでした。

それから2,3年前に買った富士登山のガイドブックを引っ張り出して、必要な装備や服装を調べはじめました。高校時代に足首の靭帯を切断しているので靴だけは、ちゃんと用意しないと大変だと思っていましたが、スポーツ用品店から山本さんに電話してどんな靴をかいたら良いか教えてもらいました。「買うのなら最低2万円くらいのもを買ったほうが良い」とのアドバイスがあり、浦和のマウイの閉店セールで2万8千円のキャラバンのトレッキングシューズが2万円

で売っていたので購入しました。この靴にはとてもびっくりしました。今まで登山用の靴を履いたことはなかったのですが、斜面やでこぼこに抵抗する力を必要としない、足に余計な負担がかからない設計になっています。また、靴紐の結び方によって登山靴の性能が大きく変化することも体験しました。何が無くともこれが無ければおそらく、登頂は無理だったと思います。

今回の富士登山の行程は、夜のぼり始めて、明け方山頂に到着し、ご来光を拝んで降りてくるというものでした。宏宗君から、「よくこの行程で登っているけど、そんなに大変ではない。」と、聞かされていました。

9月2日(土)朝から所沢で打ち合わせがあるため、富士登山の道具を積み込んで車で自宅をでました。

一日の仕事を終え、17:00に待ち合わせた永福町駅前に時間ちょうどに宏宗君と友人の奈美子さんが一緒に待ち合わせ場所に来ました。宏宗君は、とても軽装に見え私と行く場所が違うのではないと思うくらいでした。宏宗君のリュックを持つと、小さいけど結構ズッシリ重量があり、パッキングの仕方の違いなのか、さすが慣れている人だなあと思いました。

奈美子さんは、宏宗君に「富士山登ってる？自分も機会があれば登ってみたい。」と、2,3日前にメールを送ってきて、急遽参加することになったそうです。やはり、軽装で、2人を見たとき、(結構気楽に登れるんだな。)と思いました。

#### 19:10 河口湖IC到着

宏宗君から河口湖ICを降りてすぐローソンが有るので、そこで今晚と明日朝の食事と、水1リットルを各自調達するように指示を受けました。私は、焼きそば、サンドイッチ、おにぎり結構多めに買い込みました。気温は、15(東京より10低い)9月1日より東富士スバルラインが、20:00で閉鎖(20:00までに入口ゲートを通すれば良い)になるため少し急いで出発しました。

#### 19:30 河口湖登山口(5合目)到着

どんどん気温が下がって行って到着すると8でした。早速駐車場で着替えをして準備開始。

駐車場には、大型バスがたくさん止まっているが、まったく人は、まばらでさびしい雰囲気でした。

閉店の準備をしている土産物屋で憧れの杖と忘れてきた軍手を購入。



河口湖登山口(五合目)のみやげ物屋

19:45 5合目出発

宏宗君から「ゆっくり歩いてください。」と言われましたが、実際には、(そんなに早く歩くの?)と言いたくなるほどの早歩きで、ついて行くのが大変でした。



河口湖登山口(五合目)

21:05 6合目到着

杖に焼印を押してもらおう。休憩せずそのまま出発。思ったより結構疲れていて自分ひとりだとこのあたりで引き返したと思います。

22:10 7合目到着(トモ工館)

小休止のあと5分後に出発。

この頃になると歩いていても眠くなってきました。

どんどん登山客が増えてきて登山道が渋滞気味になってきました。山小屋に宿泊していた客が起きてきて、御来光を目指して登り始めたためだそうです。ひとつ驚いたのは、外国人がとても多いことです。白人は、若い女の子も相当体力が有るのかすごいスピードで登っていきます。



トモ工館(七合目)

1:20 8合目到着(白雲荘)

かなりバテ気味で、このあたりが最悪でした。暖かいコーヒーを売店で購入して飲むと多少元気が出ましたが、頻繁に呼吸をしないと気持ち悪くなってきます。少し頭痛もしてきて高山病の症状が出てきました。やはり宿泊した人と、徹夜の人との条件は、はっきり違ってきます。

一番つらかったのは、休憩できないことでした。と言うのは、登っているときは、適度な汗をかきながら登っていますが、5分も休憩すると寒くて震えがきて、眠ってしまいそうになります。



登山する柴犬(七合目)

宏宗君から「山小屋で仮眠しますか?」と聞かれ、この先どんな行程が待っているのか分からないし、自分の体の状況がどうなっているのか客観的に判断できないので一旦「休もう。」と答えましたが、美奈子さんは、まだ、余裕が有りそうに見えたし、明日朝7時までで6300円と聞いて、(やっぱり頑張ろう。)という気持ちになりました。

## 2:45 本8合目到着（富士山ホテル）

高山病が少し回復してきました。コーンスープを飲むとさらに気力ができました。余計なことを考えず、ひたすら今鎖をたぐりよせながら登っていきました。ただリズムを崩すと苦しくなるので足元だけを見ながら機械的に登っていきました。

高校時代のハンドボールの部活を思い出しました。炎天下の中で意識が遠のいて倒れると、先生から水を掛けられ、泣きながら練習していた時代もあったなあと。

また、仕事を独立して極端に苦しかった頃のことも思い出しました。大げさなようですが、このあたりは、なかなか言いようの無いくらい苦しかったです。

おそらく山小屋に一泊する行程だと楽勝の登山だと思いますが、それくらい体力のコントロールは、難しいことだということでしょうか。

## 3:30 9合目（御来光館）

最後の山小屋で味噌汁を飲みながら少々長めの休憩を山小屋の中で取りました。

「ここから山頂まで山小屋も無く休憩できない、トイレもないのでそれなりの準備をして出発してください」とのことでした。

山小屋を出発すると、登山客のものすごい渋滞でした。人一人通れるくらいの狭い登山道なので仕方が無いのですが、自分が遅れると下の人に迷惑を掛けるし、上の人が順調に登ってくれないと自分のペースが崩れるという状況でした。なので、自分が遅れて下の人に迷惑を掛けないようにするのに精一杯で、せめて上を順調に登っている人に遅れをとらない様にと、ついてゆきました。

周囲は、元気な人と具合の悪い人の状態が極端に違いすぎていて不思議な光景でした。登山道の脇には、具合の悪い人が横たわっています。

山頂近くになると急な稜線がはっきりわかるようになります。大小の不安定な瓦礫が転がっていて、いつ落石にあってもおかしくない状況です。

宏宗君が具合の悪い奈美子さんに付き添って、登ってきませんでした。自分のペースを崩すと辛いので、モクモクと登り続けました。

## 4:50 御来光を見るために停止

少しずつ空が白み始めると、登山客がみんな



山頂付近の御来光



山頂付近の登山客の行列

足を止めて御来光を待ち始めるので、渋滞で登れなくなってしまいました。

座り込んで御来光を待っている人も多く、仕方が無いので私も登るペースを落とさざるを得ませんでした。

座って宏宗君を美奈子さんとご来光を待ちながら、座って休憩しようかなあと思いましたが、やはり休むと寒くてどうしようもありません。

そうこうしているうちに山頂手前の鳥居から 15 分程下で御来光を拝みました。

宏宗君が言っていました、今回が今までに登った中で一番良い天気だったそうです。今まで登ると曇ったり、雨が降ったり、雷がなったりで、特に突風は、良く経験するそうです。

この頃からトイレに行きたくてどうしようもなくなってきました。山頂までトイレは無いし、道は、混んでいるし、体力は、限界にきているので今度は、便意で意識が遠のきそうでした。周りは、すっきりした瓦礫の急な傾斜地で 360 見通しがとても良く、隠れて野糞ができる状況にはありません。

#### 5:10 山頂到着

山頂の鳥居に到着しました。

登山客は、鳥居の前で記念撮影をしたり、登頂を喜んで奇声をあげたりしていますが、(自分のゴールは、ここではない。早くトイレを見つけなくては。)と、さらに急ぎ足で登り、やっと土産物屋に辿り着いてトイレの場所を聞きました。

山頂は、とても混んでいて(トイレも混んでいるのだろうなあ。)と、少し絶望的な気分でした。

トイレに着くとやはり 30m程の行列ができていました。5分ほど並んでやっとの思いで用を足すことができ、はれて(登頂したんだ。)という実感が込み上げてきました。

この富士山の登山では、今までに味わったことのない達成感がありました。



山頂の私と美奈子さん



山頂の宏宗君と美奈子さん



簡単にいうと、《完璧な達成感》ということでしょうか。「頂上に立つこと」と言う単純明快な目標が、「登頂するかしないか」という明確な形で結果が出るので達成感も単純ですっきりしたもののなのかもしれません。

(宏宗君と美奈子さんを探さなくては)と思いながら歩いていると、ぱったり宏宗君に会うことができました。少し休んで下山しようということになりました。宏宗君が「ここで全行程の55%です。」と言うのに少し、ガッカリ。下りが大変だとガイドブックに書いてあったが、本当だったのだ。

宏宗君は、日の出前から、「太陽が出てきたら元気になる。」と繰り返して言っていました。人間は、太陽を浴びるとそのエネルギーを吸収するのだそうです。

宏宗君の言うとおり、少し元気になってきました。眠気もあまり感じませんでした。この眠気も睡眠不足というより高山病が原因しているそうです。高山病を治すのは、自分の高度を下げる以外にないとのこと。

#### 6:50 山頂出発

今日で山頂の山小屋は、今年の営業を終了するそうです。宏宗君が「こんなにきれいな御来光を見たのは、初めて」と、言うほど最高の天気の中、いい日に登山できたものだと宏宗君に感謝。

頂上は、気温が低くおそらく氷点下近くだと思います。氷柱がところどころで見られました。

下山し始めると7合目まで売店もトイレはありません。

#### 9:30 7合目休憩場到着(江戸屋)

ただ、ひたすら足が辛いのを我慢して下山、太腿の前辺りが肉離れになったように傷みまです。度々、2,3分の休憩を取りながら7合目まで下山。

#### 10:40 5合目到着

日曜日なので東富士スバルラインをドライブしている観光客で溢れていました。



山頂付近の氷柱



山中湖を望む雲海

(やっと帰ってきた。)という満足感で一杯でした。ソフトクリームとコーラを買って食べましたが、これがまた、おいしいことこの上ありませんでした。駐車場でゆっくり着替えをして帰路につきました。

#### 12:40 談合坂 SA

談合坂SAで休憩を取りましたが、車を降りるのが、筋肉痛で大変でした。

明日は、多分起き上がれないだろうなあと思いながら宏宗君と美奈子さんを京王高井戸駅でおろして14:40分に東大宮の自宅に到着。

早速風呂に入り食事を取って17:00就寝。翌朝6:00に起きて仕事に行きました。

結果的に仕事を休んだのは、日曜日だけです。とても効率の良い、密度の濃いチャレンジをしてきました。

「一度も登らぬバカ、二度登るバカ」と言われる富士登山ですが、もう一度別の登山口から登ってみたいと思います。できればお鉢めぐり(噴火口一周)もして見たいと思います。

宏宗君は再来年キリマンジャロに行かれるそうですが、うらやましい限りです。



8合目当りの分岐点



下山途中の弘宗君と美奈子さん